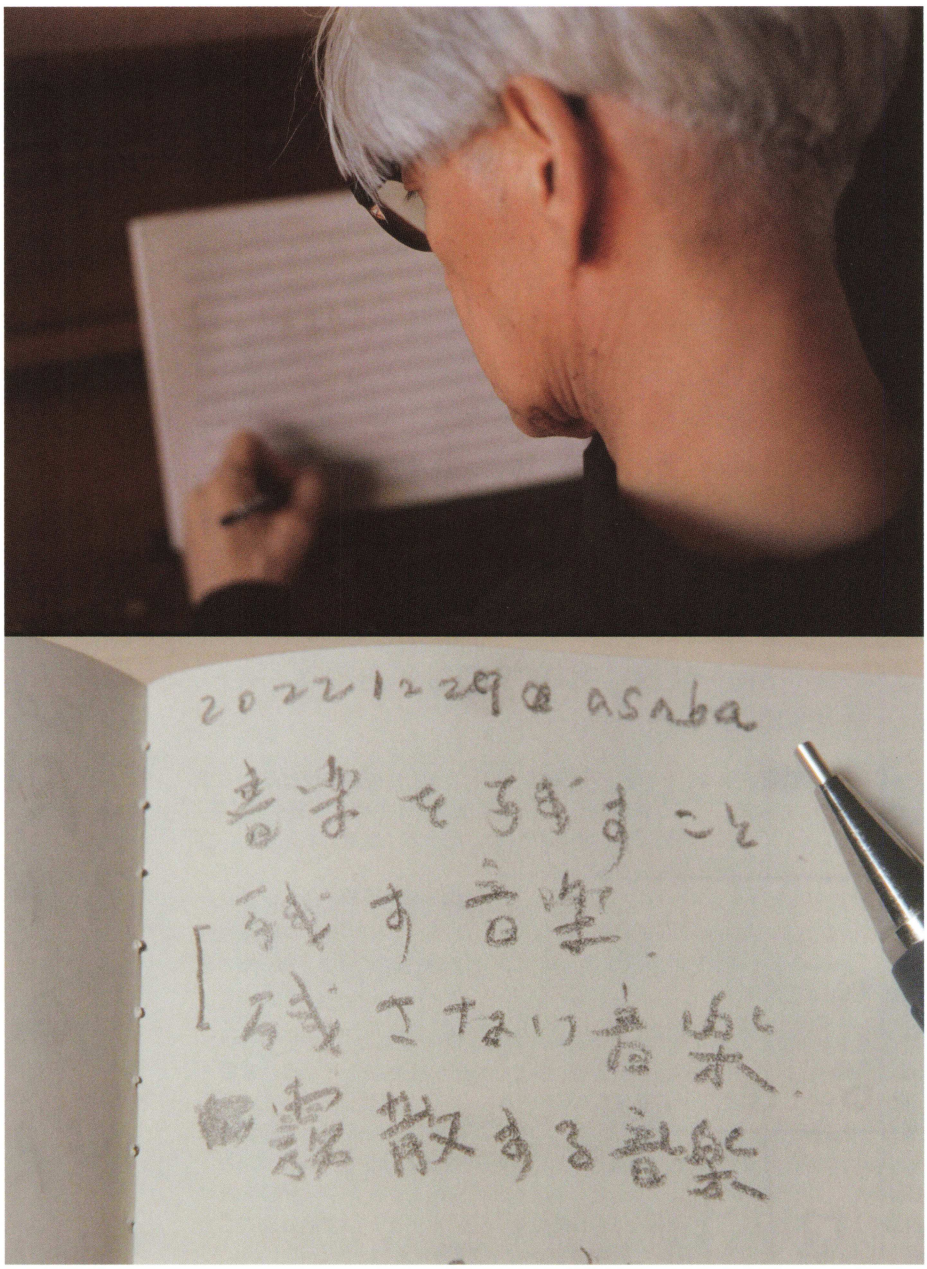
映画 Ryuichi Sakamoto: Diaries

残さない音楽

「日記」に刻まれた坂本龍一、最後の3年半の軌跡。



坂本龍一

朗読: 田中泯　監督: 大森健生

製作: 有吉伸人　飯田雅裕　鶴丸智康　The Estate of Ryuichi Sakamoto
プロデューサー: 佐渡岳利　飯田雅裕
制作プロダクション: NHKエンタープライズ
配給: ハピネットファントム・スタジオ　コムデシネマ・ジャポン
2025／日本／カラー／16:9／5.1ch／96分 G
© "Ryuichi Sakamoto: Diaries" Film Partners
https://happinet-phantom.com/ryuichisakamoto-diaries
Photo by Neo Sora

世界的音楽家・坂本龍一

彼は、命の終わりとどう向き合い、何を残そうとしたのか

2023年3月に、この世を去った稀代の音楽家・坂本龍一。その最後の日々は、自身の日記に克明に綴られていた——。ガンに罹患して亡くなるまでの3年半にわたる闘病生活とその中で行われた創作活動。目にしたもの、 耳にした音を多様な形式で記録し続けた本人の「日記」を軸に、遺族の全面協力のもと提供された貴重なプライベート映像やポートレートをひとつに束ね、その軌跡を辿ったドキュメンタリー映画が完成した。

未完成の音楽、プライベート映像、本音が綴られた言葉 ——「日記」で辿る、最後の3年半

晩年の日記に綴られた、日々の何気ないつぶやきから、「死刑宣告だ」「どんな運命も受け入れる準備がある」という苦悩や葛藤、「残す音楽、残さない音楽」といった音楽を深く思考する数々の言葉。また、雨の音、雲の流れ、月の満ち欠け——映像には、晩年の坂本が見つめ、魅せられた美しい自然の音や風景が収められ、時間を超えて観る者の心を揺らす。
日記の朗読を務めるのは、生前親交のあったダンサーで俳優としても活躍する田中泯。さらには共にYMOで活動し盟友だった高橋幸宏との知られざる交流や、最後の作品となった未発表曲の制作過程など、ニューヨークの自宅、治療のための東京の仮住まい、病室、そして最後のライブとなったスタジオで過ごした日々が日記をもとに紡がれる。

本作は、24年にNHKで放送され大きな反響を呼んだ「Last Days 坂本龍一 最期の日々」をベースに、未完成の音楽や映像など映画オリジナルとなる新たな要素を加えて制作。映画館ならではの音響と空間でこそ鑑賞すべき映画作品として誕生した。音楽家でありながら、アート・映像・文学など多様なメディアを横断し、多彩な表現活動を続けてきた坂本龍一。その軌跡を辿った展覧会「坂本龍一 | 音を視る 時を聴く」は24年に東京都現代美術館で開催され、同館の企画展として歴代最高となる34万人を超える動員を記録し、社会的現象となった。今なお国も世代も超えて我々の心を掴み続ける坂本龍一は、命の終わりとどう向き合い、何を残そうとしたのか——。人生をかけて追い求めてきた「理想の音」を最後まで生み出そうと情熱を貫いた坂本の姿が、スクリーンに刻まれる。

坂本龍一
朗読: 田中泯　監督: 大森健生
製作: 有吉伸人　飯田雅裕　鶴丸智康　The Estate of Ryuichi Sakamoto　プロデューサー: 佐渡岳利　飯田雅裕
制作プロダクション: NHKエンタープライズ　配給: ハピネットファントム・スタジオ　コムデシネマ・ジャポン
2025／日本／カラー／16:9／5.1ch／96分 G　© "Ryuichi Sakamoto: Diaries" Film Partners

OFFICIAL SITE

11.28 (FRI) ROADSHOW